上川地区社会科教育連盟小学校部会　研究協議記録

記録；東神楽町立東聖小学校　千葉香織先生

〇授業者の反省

・単元設定について

自分のまちに愛着をもってほしいということと社会科を好きになってほしいということを目標に単元を構成した。

・本時について

子どもたちは活発に発言していた。砂糖づくりの工夫をまとめ，ラフィノースで変換を図るつもりだった。

子どもたちの発言をうまく板書できなかった。後半，時間が余ってしまった。

〇研究討議

＊討議の柱１　ラフィノースで視点の変換を図ることができたか

授業協力者～当初はお菓子屋さんの気持ちで視点の変換を図ろうとおもったが，ラフィノースは世界で唯一工場生産されており，教材としての価値があると思い，これで視点の変換を図った。

・ラフィノースは教材としての価値があったのか

意見①ビートは世界的にも貴重な作物であり，ビートから砂糖を生産している地域は少ないので，これを教材化したのはよかった。しかし，ラフィノースは３年生では難しかったかもしれない。砂糖の消費量が減っていることとラフィノースの開発をからめるという設定も考えられたかもしれない。

意見②単元構成に無理があったのではないか。共通課題から複線化した段階で，グループ分けしたが内容が重なっている部分もあったようだ。例えば工場で働く人，農家，砂糖を使っている人のように人に絞るという方法も考えられる。調べ活動が整理しきれていないと授業者も子どもも混乱する。

意見③視点の変換が意識化されていただろうか。板書された関係図が子どもには落ちていなかった。ラフィノースは大人には意外なものだったが，３年生には身近なものではなかった。発達段階を考えると，子どもにかえるようなまとめがよかったかもしれない。しかし，砂糖作りの工夫については，子どもたちから意見がたくさん出ており，前時までの学習が定着していることがわかった。

意見④ラフィノースは難しかった。授業の中で，味を確かめたとしても，視点の変換は難しかったかもしれない。また，授業の進め方が早かった。場面ごとに一人ひとりの発言を全体のものにする必要があった。ビデオを見る場面でも，子どもたちから意見を出させてから見せれば，反応が違ったかもしれない。

意見⑤砂糖作りの工夫についての発表は正確なものであり，前時までの学習が定着していたことがわかる。しかし，発表されたことを板書するとき，整理しておくとよりわかりやすいものになっていたと思う。

意見⑥表彰式の写真を見せた場面では，「どんな賞をもらったでしょう」ではなく，「すごい賞をもらったんだよ」と演出して提示すれば，おいしいものではないラフィノースが特別なものにみえたかもしれない。

意見⑦後半の展開については，資料が次々とでてきたことで，3年生では混乱を招いたのではないかと思う。表彰式の写真をメインにし，賞はラフィノースを作った技術に対して贈られたものであることを知らせることで，視点の変換にすることもできたのではないか。

・視点の変換について

協力者～視点の変換として用意したものが各学年に合っているものかどうかを検討する必要があった。今回はラフィノースで視点の変換を図り，子どもたちが見ている工場のけむりが砂糖をつくっているだけでなく，ラフィノースのようなすごい製品を作っていることを知り，けむりの見方が変わってくれるといいという期待があった。

意見①視点の変換は本当に必要なのか。けむりの見方が変わることは，社会的事象の見方が深まったことであり，視点の変換とは言えないのではないか。視点の変換と問い直し・分かりなおしを同じ意味で捉えていいのか。

研究部～視点の変換とは一つの事象を追求し，発表交流するとそのことについてだけの追求なるが，視点の変換を図ることで別の事象も含まれることを知ることになり，さらに深まった追求になると考えられる。

意見②ラフィノースによって見方をかえることで，日甜士別工場の価値を高めることになる。これも視点の変換ではないか。

意見③これまで追求してきたことを，少しひっくりかえしたり，広げたりすることも視点の変換ではないか。

意見④これまで社会科の授業では，思考はさせてきたが，判断させる場面はなかったと思う。判断させるための手立てが視点の変換にはならないだろうか。

研究部～視点の変換については，冬季研修での宿題にしたいと思う。

〇助言者より

・視点の変換は子どもの理解を深めるための指導の手立ての一つではないだろうか。

・本時はどこで落ち着くのか。砂糖のひみつをまとめる場面でうまく整理されていれば，ラフィノースが生かされたと思う。

・「ラフィノースはがんばらないと作れないよ」という発言があり，見方を変えた子どももいた。

・視点を変換するポジションを考える必要がある。まとめと変換の位置関係を図式化すると，視点の変換をすることで，子どもたちの思考がどこに着地するかを明らかにすることができるのではないか。

・社会科における単元構成の工夫としては，「自分と社会事象の関係」「事象と事象の関係付け」「子どもの単元全体像の把握」が考えられる。

・本時では，指導者が子どもの発言をしっかり受け止めており，授業を動かすためには，教師の対応力も必要であることがわかる。